

■児童・生徒の学力の状況

○全国学力調査では、都平均より国語で3%、数学で2%高い正答率を示した。無回答率については都平均と比べて国語で1.8%、数学で3.2%良かった。学力分布は全国と都と比較して低学力層の割合が少ない傾向にあった。分野においては数学の「データの活用」の正答率が都と比べて低かった。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題
※「読み解く力」の育成を踏まえて

○R6年度のRSTの結果では、学年が上がるにつれて平均的な能力値が上昇する傾向が見られた。現8、9年生において令和5年度のRSTの結果と同一母集団内で経年比較してもそれぞれの学年で5pt程度の上昇が見られた。
○7学年では「係り受け解析」8学年では「同義文判定」、9学年では「照応解決」に課題が見られた。

■学校経営方針より(学力向上に関わる内容から)

1 教師の授業力向上を目指す

- ・各教科において、生徒が主体となる授業を実践し、生徒が考える時間と機会を設ける
- ・各教科においてタブレット端末やICT機器を活用した授業を実践する
- ・校内研修会において、タブレット端末やICT機器を活用した授業実践事例を発表し、教員間で情報共有やアイデアを交換し、互いの授業改善に役立てる
- ・「いたばし学力向上基本方針」の理念を理解し、授業では「板橋区授業スタンダード」を全教師が完全実施する。
- ・板橋アカデミーや指導教諭の模範授業、各種研修会へ参加する
- ・授業内で生徒が行う話し合い活動は4人班を基本とし、生徒の発言機会の確保に努める

2 「サイレントスタディ」や補習教室を充実させる

3 家庭学習の習慣を定着させる

4 学びのエリアにおける小中一貫教育の推進によって、生徒の学びの連続を図る

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底	読み解く力の育成	総合的な学習の時間との連携
○生徒が主体となる授業を実践し、生徒が考える時間と機会を設けるとともに、生徒が自身の考えを書いたり、伝えたりする活動を設定する。(講義的な形式の授業スタイルからの脱却)	○授業の中で、教科書や資料(文章と図やグラフ、表など)の読み取りを行ったり、省略された主語や目的語などを正しく照応したりするなど、各学年に応じた場面を設定する。	○各教科において学習して身に付けたことを教科横断的に活用し、調査や分析・表現をしていく。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○学びのエリアを通して義務教育における到達目標を小学校・中学校で共有するとともに、義務教育各学年での習得状況を把握し「板橋を語る子」の育成に取り組む。 ○キャリア教育では地域企業や商店などとの連携をはかりながら職業インタビュー、職場体験、アントレプレナーシップ教育を行うことにより進路学習と郷土板橋を愛する心の育成の2点を重点項目として実施する。	○総合的な学習の時間において、板橋区と他地区を関連させた調査、区の防災・福祉・環境に貢献できることを考える「郷土愛」に関連する学習を行っていく。その際に、社会科の地理(身近な地域の調査の単元)や理科(火山と地震・気候の単元)との連携を図っていく。 ○また、総合的な学習の時間では探究のプロセスに沿って学んでいくが、国語の発表・数学の統計・美術の作画などの技法を活用し、教科横断的に個人の資質向上を図っていく。	○フォーム機能のアンケートで速やかな集計・分析をし、授業内容を改善し生徒に還元していく。 ○ICTによるテストやドリル教材など個々の課題に気づかせたり、取り組ませたりする個別最適化をした学びを行う。 ○ファイルの共同編集などの協働的な学習をする。 ○会議用アプリケーションを活用し、不登校生徒や病気療養中の生徒でも協働的に学べる機会を確保していく。